

令和4年度 佐久市総合計画審議会第3部会（第1回） 会議録

日時：令和4年8月5日（金）

午後3時00分～

場所：佐久市役所議会棟

第4委員会室

【出席者】雨宮部会長、山崎副部会長、土屋（珠）委員、掛川委員、池田委員、土屋（俊）委員、安原委員、成澤委員、臼倉委員、渡辺委員

【事務局】木内企画課長、安井企画調整係長、金澤主任、小林主任

○協議事項等

次第

1 開会

- ・部会長挨拶
- ・欠席委員報告（臼田委員、酒井委員）

2 議事

（1）第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理について
質疑、意見

事務局	初参加の委員さんもいらっしゃるため、まず簡単に総合戦略の概要について説明し、その後調査報告書の説明に入る。 ①総合戦略概要について説明 ②基本目標③「結婚・出産に先んじて子育てのトップランナーを目指す、佐久市における『ひと』の創生」について説明
部会長	基本目標③について、ご質問等ありますか。
委員	総合分析の中で、15歳から49歳までの女性の人口が減少しているのに対して、出生率が増加したということは、女性が少ないにも関わらず出生しているということで、良いことのように思うが、減少の方を強く捉えるべきなのか。
事務局	女性の人口がどうしても減少してしまっているので、減少の部分を強く捉えて分析を行った。
委員	資料22ページ、子育てのトップランナーに関する説明につい

事務局	<p>て、サングリモ中込における子育て支援コーディネーターの「利用者支援事業」と、「つどいの広場」の活動の具体的な違いについて教えてもらいたい。</p> <p>似たような事業ではあるが、サングリモ中込の子育て支援コーディネーターについては、サングリモ中込において、助産師、保健師や保育士の皆さんが、子育てや妊娠中の困り事、心配事の相談に乗る事業として実施させていただいている。つどいの広場については、市内各所で資料に記載ある事業を行っている。大きく趣旨が変わる事業ではない。</p>
委員	<p>利用者は多いのか伺いたい。</p>
事務局	<p>市内 19 か所の子育てサロンは、延べ 4,679 人に利用いただいている。サングリモ中込の利用者数については次回報告させていただきたい。</p>
委員	<p>幼稚園就園前の小さなお子さんが来ているという認識でよいか。</p>
事務局	<p>そのような子どもたちも来られるが、幼稚園・保育園に通っている子どもも来ている。</p>
委員	<p>平日は幼稚園等に通っていると思うので、土日に利用されるのか。</p>
事務局	<p>土日に開催しているところもある。</p>
委員	<p>妊娠や出産に対して色々な施策を実施しているのは分かったが、まず結婚する人が少なければ子どもも増えないと思う。コロナ禍の中ではあるが、市として結婚に対してどのような対策をとっているのか伺いたい。</p>
事務局	<p>やはり出会いの場が重要であるということで、コロナ前にはマッチング事業を市にて行ったこともあった。</p> <p>また、社会福祉協議会の結婚相談の事業など、公としてできる</p>

	<p>範囲で取組を行ってきた。今は国からの予算がないことや、コロナの状況もあって事業が展開できていない現状がある。コロナの状況が今後変わっていく中で、そういった事業も改めてできればいいと思う。</p>
委員	<p>出生率の高低が評価の対象となっているが、出生率と合わせて、結婚を求めている方の出会いがなくて結婚できないのか、そもそも、若者が結婚というものに対して若い人がどう考えているのか、というようなことを根底から議論しないと意味のない議論になってしまうと思う。</p> <p>女性の場合、結婚や家庭に縛られて、仕事を辞めないといけないうようなことが原因で結婚を控える方も多いと聞く。そういったことを評価しながら出生率の議論をしないと、ただ上辺だけ議論で終わってしまうので、出生率の高低が必ずしも評価として適当なのかという疑問を持っている。</p>
事務局	<p>ご指摘いただいた点も踏まえて検討を進めたい。20代の男性の7割が女性とお付き合いしたことがない、というような報道もあり、時代がだいぶ様変わりしたと感じている。指標の上下に一喜一憂するものではないと考えている。</p>
事務局	<p>補足として、育児休業について、今、国としても力を入れている。民間企業にも、男性の育休も含めた育児休業の取得についてかなり積極的に促しており、結婚して出産して一旦離職する、という女性の就業のM字になる部分が少しずつ緩和してきているという報道もある。市の職員も育休の推進をしているところである。</p>
委員	<p>今の時代は結婚と出産は必ずしもイコールではないと考えている。結婚しても出産はしない選択肢もあるし、結婚しないけれど子どもを持ちたい女性もいる。ジェンダーの問題もある。日本の昔からの形として結婚＝出産というシステムはあるが、そうすると若者が息苦しさを感じるのではないか。1つの価値観ではなく、多様性、新しい生活スタイルを考慮して、いくつかの価値観から出産を捉えた支援ができると思う。</p> <p>もう1つ、資料20ページ、子どもを産み育てるための不安の</p>

事務局	<p>払しょくなどの対策を強めるとあるが、具体的に子育てに対してどのような不安が出ているのか挙げていただきたい。</p> <p>ここにおける不安とは、いわゆるコロナ禍で妊娠中に感染した場合の不安について、特に妊婦さんをはじめご家族の方の不安を和らげるよう、保健師等に相談する際、市としても寄り添って、不安を和らげて出産に結び付けたいという思いから、ここに記述させていただいている。</p>
事務局	<p>一時期、妊婦さんがコロナワクチンを打って大丈夫かという点について相談が多くあったので、そういう不安を和らげるために、保健師による相談等を行って対策しているところ。</p>
委員	<p>この項目に関してはコロナに関する不安であって、それ以前の日常的な不安のことではないのか。</p>
事務局	<p>日常的な支援に関しましても、保健師が随時相談を受け付けている。</p>
委員	<p>コロナ禍も不安の大きな原因の1つかもしいないが、コロナ禍が終わり、産みたいと思った時、時代や生活スタイルが変わっているため、私たちの経験とはまた違う不安を感じるのではないかと。年を取ってしまうと、若い人の感覚が分からなくなり、自分の経験を元に話すとずれていってしまったり、相談されなかったりする。不安の分析がしっかりしていると対策はしやすいと思っている。</p>
事務局	<p>市としては、資料 22 ページに記載している、不妊治療及び不育症に対する支援や、産前・産後の支援については特に力を入れて行っている。</p>
委員	<p>発達障害のお子さんを持ったお母さんたちがなかなか相談に行けずに育児ノイローゼになる。そういう悩みを保健師に拾っていただいているが、保健師も結構悩んでいるようで、保健師の後方支援が必要だと現場で感じた。</p>

委員	<p>経済的な問題もあると思う。日本は教育費が高く、子育てをするには大変な状況である。経済的な問題で第3子、第4子を控えているというという声もある。母子家庭世帯が働き続けられる、子育てし続けられる環境作りが必要である。</p>
委員	<p>LINEを用いた情報発信とあったが、LINEの社長が佐久市出身ということでLINEを活用しているのか。</p>
事務局	<p>LINEの会社として地方自治体を巻き込んだ情報発信の取組を行っている中で、佐久市もLINEを使っている。出澤社長が佐久市出身だからというわけではない。</p>
事務局	<p>多くの皆さんがLINEをインストールされているため、情報が届きやすいということでLINEを採用して情報発信を行っている。</p>
委員	<p>子育ての先進地としての地域外への情報発信とあるが、佐久市は子育ての先進地であると他から見られているのか。</p>
事務局	<p>全国的にそう認識されているというわけではないが、ほかの自治体と比べれば多く取り組んでいる方であると思う。</p> <p>令和6年度末に、野沢地区に、子育てに関する相談をワンストップで受付することのできる子育て拠点施設が完成する予定であり、そのような施設ができることで、また佐久市の子育て環境のレベルが上がるものと思う。</p>
委員	<p>人員を配置するに当たり、補助金を活用するものと思うが、その際にどういう人を配置するのか、その人の仕事の内容などについてしっかりチェックを行い、効果検証をしてもらいたい。適正な人を適材適所で配置していただいて、その人にしっかりと給料を支給していただきたい。</p>

(2) その他

部会長	<p>その他について、事務局から何かあるか。</p>
-----	----------------------------

事務局	第2回の部会を、8月26日（金）10時から開催予定。 内容としては、第2次佐久市総合計画基本計画の第4章、保健福祉、子育て支援分野に係る審議を行う予定。
-----	---

3 閉会

（確認事項）

- ・ サングリモ中込の利用者数

令和3年度のべ利用者数：179人

相談内容としては、子どもの発達についての相談が86件と最も多く、次に母乳等の身体ケアについての相談が27件と続く。

- ・ 子育て世代が不安に思うことについて

令和2年度から6年度を期間とする、子ども・子育て支援事業計画の策定にあたり行われた、市内の未就学児童のいる1,000世帯を対象としたアンケート調査においては、「子育てについて、日ごろ悩んでいることや不安に思っていること」として、子どもの・病気や発育・発達についての不安を感じている方が最も多く、次に子供の食事や栄養、子育てにかかる費用負担の大きさについて悩んでいる方が多いという結果であった。

なお、令和7年度からの新たな計画の策定に向けて、今後新たな調査が計画されている。